



川島町長 飯島 和夫氏

町長のメッセージ

川島町は都心から車で約1時間の場所にあり、四方を川に囲まれた町です。町のキャッチフレーズは「ここが好き、やっぱり好き」。川島町に関わる全ての方々に愛着と誇りを持ってもらえる町を築いていきたいという想いを表しています。

そんな町の魅力を全国に発信するため、2022年1月、川島町初の地域商社、「一般社団法人さまちか」を設立しました。「未来へ輝く稼ぐ地域をつくる」を具現化したもので、通常の行政では担えない、稼ぐ事業推進組織として、地域資源を生かした魅力あるまちづくりを進めてまいります。

はじめに

川島町は都心から約45km、埼玉県のほぼ中央部に位置し、東西11km、南北8km、面積41.63km²の人口約2万人の町である。近隣自治体との境には川が流れ、まさに「川に囲まれた島」のような地形をしている。標高は平均14.5mで高低差はほとんどなく、豊かな自然と田園地帯が広がっている。

町内に鉄道駅はないが、バス便により、JR川越線・東武東上線の川越駅、西武新宿線の本川越駅、東武東上線の若葉駅・東松山駅、JR高崎線の桶川駅・鴻巣駅にアクセスが可能である。道路は国道254号が南北に、圏央道が東西に走っている。

2008年の圏央道開通後、川島IC近くの産業団地に多くの工場・物流施設が進出し、町の風景は変わりつつあるが、今でも農業は盛んだ。

町の特産品としては、人気の米のほか、いちご、いちじく、トマト、きゅうりなどがあり、「川島農産物直売所」で購入できる。

また、川島町は女子プロゴルファーの岩井姉妹の出身地としても知られている。最近の活躍を受け、今年1月に岩井姉妹に対し、川島町民栄誉章が贈呈された。

町内には見どころも多い。町役場に隣接する「平成の森公園」内には、各分野の日本一記録を認定・掲載しているサイト「日本一ネット」により2006年に「日本一長いバラのトンネル」として認定された「バラこみちの小径」がある。また、町内の至るところに季節の

花々が咲くほか、冬には白鳥が飛来する。

お祭り・イベントいっぱいのまち

町内ではお祭り・イベントが頻繁に開催され、町内外から多くの方が訪れる。

去年は、バラが見ごろとなる5月に、「Kawajima Spring Festival」が開催された。会場の「平成の森公園」にはキッチンカーやハンドメイド雑貨店などが出店されるとともに、エア遊具なども設置され、多くの家族連れなどで賑わった。

10月中旬には「CAR FESTIVAL in KAWAJIMA」が開催され、昭和・平成の名車が集まった。川島町はメインの交通手段が自動車であることから、戦後のモータリゼーションを築いてきた昭和の車を中心に展示しようと始められたもので、三回目となる去年は、350台を超える貴重な旧車が集まり、大いに盛り上がった。



「CAR FESTIVAL in KAWAJIMA」の様子

川島町概要

人口(2024年3月1日現在)	18,808人
世帯数(同上)	8,219世帯
平均年齢(2023年1月1日現在)	52.2歳
面積	41.63km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	104所
製造品出荷額等(同上)	1,144.4億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	113店
商品販売額(同上)	558.3億円
公共下水道普及率	53.1%
舗装率	56.7%

資料:「令和5年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 圏央道 川島ICから町役場まで約3km

10月下旬には二回目となる「かわじまランタン祭」が開催され、参加者の想いが書かれた約400基のLEDランタンが夜空に浮かび上がると、会場周辺は幻想的な雰囲気包まれた。

圏央道開通後、自動車での交通利便性が高まっていることから、これらのお祭り・イベントをぜひ訪れてみてはどうだろうか。

★ 町の地域商社「さまちか」が誕生

川島町の地域商社である「一般社団法人さまちか」が2022年1月に誕生した。社名「さまちか」は「さいたまの まんなかの ちいさなまち かわじま」の頭文字から名付けられた。「さまちか」は川島町の魅力を全国に向けて発信すべく、地域の資源を活かした商品開発や情報発信を行い、地域を元気にする活動を行っている。

「さまちか」が特に力を入れているのが米だ。江戸時代、川島町がある地域は、徳川幕府の天領として、収穫される米は徳川幕府に納められた。昭和・平成

の時代を通じ、この地域の米の生産者は、肥沃な土地で育ったおいしい米をよりたくさんの人に味わってもらおうと、減農薬や有機栽培に取り組むとともに栽培技術の向上に努め、安全で最高品質の米に育て上げた。「さまちか」では、この川島町産の最高品質の米を「かわじま町の天領米」として、販売拡大に努めている。

また、「さまちか」では、川島町の特産品のオンラインショップ「かわじま百貨店」を開設しており、「かわじま町の天領米」を購入することができる。「かわじま百貨店」のサイトでは商品販売だけでなく、お祭り・イベント情報なども盛りだくさんであり、家族での外出イベント企画時にも活用できそうだ。

★ 川島インターチェンジ周辺の開発

川島町では、定住人口の増加や雇用の場の創出、税収の確保など、町の発展を目指し、圏央道川島IC南側地区の開発計画を進めている。

2015年の圏央道埼玉県内全通後は、東日本各地への交通アクセスの良さから、製造業や物流業での沿線地域への進出ニーズが急速に高まり、川島IC至近の川島インター産業団地は既に進出する余地がない状況で、川島IC南側地区の開発が待たれている。

計画が実現した際には、田園地帯が広がるなかにながら、お祭りやイベントが頻繁に行われるなど活気にあふれ、働く場も近くに多くあるなど、さらに魅力のある町になっているだろう。(太田富雄)



「かわじま百貨店」のサイト